

教科名		技 術	科 目 名	
対象学年		中学 1 年	コース・選択等	
単位数		1 単位	教 科 書 (出版社)	新 技術・家庭 技術分野 (教育図書)
使用教材		授業プリント、ClassiNOTE、スキルアシスト		
学習の ねらい		・生物育成に関する技術では、身近なものをテーマに取り上げ、基礎知識を身につける。また、現代の日本の食文化について考察する。 ・身近な素材では、木材と金属とプラスチックに着目し、見識を深める。また、製図の基礎を学び、ものづくりへとつなげる。 ・エネルギー変換に関する技術では、さまざまな発電方式を知り、生活を支える電気製品について考える。 ・また、身近な環境問題に目を向け、対応策について検証する。		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留意点
	1 学期	iPad運用の基本的操作 B 編 生物育成の技術	・植物栽培の基礎知識を身に着ける。 ・綿花の栽培を実践する。 ・動物の飼育に関する知識を蓄える。	・iPadに関しては、ICT支援員と連携する。 ・植物栽培では、体験を通して知識を増やす。
	2 学期	A 編 材料と加工の技術 C 編 エネルギー変換の技術	・身近に利用されている材料について学ぶ。 ・製図について学ぶ。 ・機構と仕組みを考える。 ・さまざまな発電を知る。 ・電気の変換について学ぶ。 ・電気製品の仕組みを知る。	・身近な製品をテーマにし、「見える学習」を心がける。 ・現在研究中の発電方法についてもiPadを利用して検索し、同クラス生徒に説明する資料を作成する。
	3 学期	生活と環境	・身近な問題に目を向ける。 ・問題解決への取り組み方を学ぶ。	・環境問題や社会問題に目を向け、身近なものと理解して、自分にできる取り組みを考える。
学習の 留意点・ 評価など		・授業の進行は、プリントのみではなくClassiNOTEを活用し、見やすい資料提供を心がける。同時に生徒が考える意見を集約・共有し、多角的な視点を育むことができるように計画する。ClassiNOTEの提出も、評価に加える。		
備 考		単語や技能を覚えさせるだけではなく、疑問を抱かせ、調べて解決することができるような内容を実施する。また、自分の言葉で表現する機会を増やす。		

教科名		情 報	科 目 名	
対象学年		中学 1 年	コース・選択等	
単位数		1 単位	教 科 書 (出版社)	新 技術・家庭 技術分野 (教育図書)
使用教材		授業プリント、ClassiNOTE、Windowsパソコン Webコンテンツ (Scratchなど)		
学習の ねらい		・他教科で利用するClassiNOTEに関する基本的操作の習得。 ・情報化社会を生きる上で心がけるべきことを学ぶ。 ・Windowsパソコンの利用と活用。 ①Wordの利用と習得 ②PowerPointの利用と習得 ・Webコンテンツを利用した情報の活用 ①プログラミングソフトScratchを利用したプログラミングの基礎習得 ②双方向性のあるコンテンツの仕組み		
学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留意点
	1 学期	D編 情報の技術 ・メディアリテラシー ・ローマ字表とキーボード ・Wordの利用と活用	・「情報」の扱い方を考える。 ・Windowsパソコンの利用方法を習得する。 ・キーボード入力スキル向上を念頭に実施す。	・情報の収集から発信までの留意点を考える。 ・ローマ字入力の練習を繰り返し、タッチタイピングを目指す。
	2 学期	・ネットリテラシー ・情報処理の基礎 ・PowerPointの利用と活用	・情報化社会に生きる一人として、ネットリテラシーについて意識を高めながら情報端末を利用する。 ・プレゼンテーションの基礎を学び、資料を作成する。	・情報を発信する場合の注意事項についても、授業で確認する。 ・PowerPointでは、機能を利用して動画の作成を行う。
	3 学期	・プログラムの基礎 ・Scratchの利用 ・双方向性のあるコンテンツ ・3Dプリンター	・Scratchではプログラミングについて体験する。 ・双方向性のあるコンテンツは、仕組みを理解し、実際に利用することを中心とする。 ・Tinkercadを利用して3Dデータを作図する。	・Scratchでは、自分のペースで学びを深めていくことができるように工夫する。 ・画面内で立体的な作図を体験し、3年生のDignityにつなげる。
学習の 留意点・ 評価など		・小学生の時の体験に大きな差がある。使い慣れている生徒が飽きることなく、同時にパソコンに苦手意識を持っている生徒も楽しく参加できる授業を計画する。 ・他者と比べるのではなく、各自のレベルアップを実感できるものを考える。		
備 考		授業支援アプリのClassiやClassiNOTEの利用を率先して行い、他教科での利用がスムーズに進むようにレクチャーを行う。		

教科名	技術・家庭科		科目名	
対象学年	中学2年		コース・選択等	
単位数	2単位		教科書 (出版社)	技術・家庭 家庭分野 (教育図書)
使用教材	家庭科ワークノート 衣生活住生活と自立 (地域教材社) 家庭科ワークノート 食生活と自立 (地域教材社) 2026生活学Navi 資料+成分表 (実教出版)			
学習のねらい	・自分の衣服の手入れや管理ができる。そのための繊維や衣服についての基礎知識を習得する。 ・基本的な被服製作の方法、手順を学びながら、具体的に製作ができる。 ・生活の中で食事が果たす役割と、栄養素の種類や働きを知り、中学生に必要な栄養を考えた食生活ができる。 ・食品群別摂取量のめやすを考えた1日の献立作成ができ、調理の基礎も実習を通して体験する。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学期・月等	単元
	4月	<生活を豊かにする工夫> 1. 製作実習の基礎 2. つくってみよう (実習1)「イージーパンツ」 ①裁断・縫いしろの始末 ②ポケット まつり縫い ③また下 ④すそ ⑤また上 ⑥ウエスト ⑦ゴム通し	10月	<健康と食生活> 1. 食事の役割 2. 健康によい食習慣 <何をどれだけ食べたらいいか> 1. 栄養素の種類とはたらき 2. 中学生に必要な栄養素の特徴 3. 食品に含まれる栄養素 4. 1日に必要な食品の種類や概量 5. 1日の献立作成
	5月		11月	
	6月		12月	<調理と食文化> 1. 年中行事と行事食 ○わが家の行事食を調べよう
	7月	(実習2)「三角巾の刺繍」 ①刺繍	1月	2. 食品の選択と購入
	9月	<わたしたちの衣生活> 1. 自立した衣生活のために 2. 衣服の着用 3. 衣服の入手 4. 衣服の手入れ 5. 衣服の処分	2月	3. 食品の適切な保存
			10～	4. 調理の基礎
			3月	5. 作ってみよう
			(随時)	○ホームプロジェクト ・朝食作り ・昼食作り ○調理実習・実験 (2回)
	学習の留意点・評価など			
備考				

教科名	技術・家庭科		科目名	
対象学年	中学3年		コース・選択等	
単位数	1単位		教科書 (出版社)	技術・家庭 家庭分野 (教育図書)
使用教材	家庭科ワークノート 衣生活住生活と自立 (地域教材社) デジタル平面計画 (教育図書) 家庭科ワークノート 身近な消費生活と環境 (地域教材社) 2025生活学Navi 資料+成分表 (実教出版)			
学習のねらい	・ 幼児の生活と幼児の心身の発達の基礎知識を習得し、Dignityで行う夏休みの幼稚園体験、発達段階にふさわしいおもちゃ開発につなげていく。 ・ 自分の生活空間をよりよくするための知識を身につけ、工夫して快適な生活ができる力を養う。 ・ 食事の文化的な意義を知り、より豊かで気持ちの良い食事をするための食卓作法を身につける。 ・ 多様な販売方法を理解し、トラブルに巻き込まれず環境にも配慮した選択、購入ができる消費者になるための力を養う。			
学習内容と流れ	学期・月等	単元	学期・月等	単元
	4月	＜幼児の生活と家族＞	10月	＜私たちの住生活②＞
		1. 幼児の体の発達		4. 家庭内事故から家族を守ろう
	5月	2. 幼児の心の発達		5. 災害に備えた安全な住まい方
		3. 幼児の生活習慣の習得方法		6. 快適な住空間 (実習)
		4. 幼児の生活の特徴	11月	(実習) デジタル平面計画
	6月	5. 幼児の遊びと発達のかかわり		＜私たちの消費生活＞
		6. 幼児の発達を支える大人の役割		1. 買い物をふり返ってみよう
		7. 幼児とふれ合う	12月	2. 買い物の法律的な意味
		＜私たちの住生活①＞		3. いろいろな販売方法や支払方法
	7月	1. 住まいのはたらき		4. 消費者トラブルを防ごう
		2. 家族が暮らしやすい住まい方	1月	5. 消費者を支える仕組み
		3. 健康を守る室内環境の整え方		6. 買い物の社会的な意味
		＜食卓作法＞ (修学旅行事前学習)		7. 消費者の権利と責任
	9月	②日本料理のマナー	2月	8. 消費者が社会に与える影響
		③西洋料理のマナー		9. 環境に及ぼす影響を考えて行動しよう
		④中華料理のマナー		10. 消費者として、いま、私たちにできること
			3月	
学習の留意点・評価など				
備考				

教科名		家庭科	科目名	家庭基礎
対象学年		高校1年生	コース・選択等	必修
単位数		2単位	教科書 (出版社)	ウェルビーイングにつなぐ家庭基礎 (教育図書)
使用教材		ウェルビーイングにつなぐ家庭基礎 マスターノート (教育図書) 生活学Navi 資料+成分表2024 (実教出版)		
学習のねらい		生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期 4月	Introduction 生涯の生活設計1 ①自分の将来をイメージしよう！ A編 第1章 青年期の自立と家族・家庭 ①自立への一歩を踏み出そう ③将来の自分と家庭を想像しよう	- 各ライフステージの特徴と課題を理解する。これから起こる人生のライフイベントを想定し、目標をたて、そのための意思決定について考える。 「おとな」とは何かを考える。また、青年期とはどのような時期なのかを知り、青年期に必要な自立について考える。 - 現在の家族を取り巻く状況（少人数化・多様化、結婚以外の生き方、家族関係の変化）について理解する。	
	5月	C編 第1章 消費経済と経済計画 ④社会経済につながる家計とは？	家計について理解し、家計の収入・支出項目や給与明細の読み方を知り、家計収支のバランスについて考える。	◇大学の先生による出前授業
	6月	C編 第2章 持続可能なライフスタイルと環境 ②持続可能な消費行動とは B編 第2章 衣生活と健康 ④今後の衣生活を考えよう ◇被服実習	- フェアトレードなどのエシカル消費のしくみについて理解する。 - 衣生活に関わる省エネルギーやリサイクルなど環境に配慮した行動や、テクノロジーを活用した新しい取り組みについて考える。 - エコバッグ製作を通して、エシカルファッションについて実践的に考える。	◇被服実習（エコバッグ製作）

学 習 内 容 と 流 れ	学期・ 月等	単 元	ね ら い	留意点
	7 月	◇和服について	・日本の伝統的な衣服である和服の特徴を理解する。	
	2 学期	◇浴衣の着付け	・女物ひとえ長着の着方、たたみ方を習得する。	◇浴衣の着付け
	9 月	B 編 第 2 章 衣生活と健康 ②衣服はどうやってつくられている？	・衣服の成り立ちを知るとともに、性能とのかかわりを考える。	
	10 月	B 編 第 1 章 食生活と健康 調理実習を始める前に ◇調理実習	・調理の基本的な技術を身につけ、安全や衛生面に配慮した調理ができるようになる。 ・調理実習を通して、基礎的な調理の知識・技術を身につけ、より豊かな食生活を創造することができる。	◇調理実習（2 回を予定）
	11 月	②私たちは何を食べている？	・食品に含まれる栄養素について理解し、食品の栄養的特徴や調理上の性質について科学的に理解する。	
	12 月	A 編 第 2 章 子どもの生活と保育 ①子どもはどう生まれ育つ？ ②子どもの生活にどうかかわる？	・乳幼児期における子どもの発達・発育について理解する。 ・子どもと遊び、児童文化、児童文化財について理解する。 ・親の役割について考え、理解する。 ・子どもの生活習慣、食事・衣服・健康・安全の重要性を理解する。	
	3 学期	◇絵本POP製作	・自分自身が小さいころに好きだった絵本を取り上げ、絵本のPOP製作する。絵本の役割を理解するだけでなく、表現する力を養う。	◇絵本POP製作（2 時間）
	1 月	A 編 第 3 章 高齢期の生活と福祉 ①高齢期ってどういう時期？ ②高齢化する日本を生きる A 編 第 4 章 共生社会と福祉 ①共生ってなんだろう？	・高齢期の心身の変化について知り、高齢期に特徴的な疾病について理解する。また、高齢期における生きがいや社会参加について考える。 ・日本と世界の高齢化の推移と将来予測について理解する。 ・高齢者介護、社会的孤立などの課題について考える。 ・共生社会の意味とリスクマネジメントの必要性を理解する。 ・社会保障の機能と社会保障制度、公的年金制度について理解する。	
	2 月	Summary 生涯の生活設計 2 ①Well-being を実現しよう！	・家庭基礎の学習を生かし、将来の生活に向かって目標を立て、自分らしい生活を設計することの意義を理解する。	

学習の 留意点・ 評価など	(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けることができたか。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養うことができたか。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養うことができたか。
備 考	

教科名		家庭科	科目名	保育基礎
対象学年		高校2年	コース・選択等	コースⅠ（2選－2）
単位数		2単位	教科書 (出版社)	保育基礎 教育図書 生活学NAVI 2023 実教出版
使用教材				
学習のねらい		1. 乳幼児の発達と特徴、乳幼児の生活と保育、児童福祉などに関する知識と技術を習得させ、子どもの健全な成長を図る能力と態度を育てる。 2. 身近な材料を使って、簡単な子どもの玩具等を作ることを学び、手作りの大切さについて考えさせる。 3. 年々、保育事情が複雑になる中で、生命を尊び、育ちゆく子どもにとってよりよい環境を作っていく責任があることを理解させ、実践できる力を育みたい。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期	第1章 子どもの保育		
	4月	1 保育の意義	・乳幼児期は人間の発達の基礎を培う大切な時期であり、この時期の発達の特徴を学び、かかわり方の重要性を理解する。	
	5月	2 保育の環境	・保育環境を整えるとはどういうことか学ぶ。「育つ力」を十分に引き出す環境について考える。	
		3 保育の方法 ★簡単な折り紙の習得 ★フェルトのバッグ型知育玩具の製作	・年齢に応じた保育の方法を知る。 ・子どもの育ちに役立つ手作りおもちゃにはどのようなものがよいかを考え、計画に従って、創造的に製作できるようにする。	行事や季節ごとの折り紙を習得 安全で発展性のある玩具製作・提出
	6月	第2章 子どもの発達		
		1 子どもの発達の特徴 2 乳幼児の発育と発達	・胎児期から乳幼児期までの成長には環境が大きく関わることを理解する。 ・子どもの病気や事故の特徴を学び、適切な対処法を学ぶ。また、子どもへの安全教育の重要性を認識する。	
	7月	(幼稚園体験準備)	・保育とは何か、子どもの健やかな育ちを支える保育の方法を理解し、集団保育の場に参加する準備と知識の習得を行う。	諸注意確認（園でのルール、安全への配慮、服装や接し方）
	2学期	★幼稚園体験学習	・実際に保育体験をし、幼児とふれあうことにより、子どもへの理解を深める。	体験レポート提出

	学期・月等	単 元	ね ら い	留意点
学 習 内 容 と 流 れ	9 月	第 3 章 子どもの生活 1 子どもの健康と生活	・子どもの健康と生活には、大人の役割は大きい。適切な働きかけや生活習慣の習得のための家族や養育者の養護について理解する。 ・食習慣を形成する上でも重要である、乳幼児期の食事について理解する ・偏食や食習慣の乱れをなくすにはどうしたらよいかを考える。	残さず食べられる 幼児食の工夫 クリスマスカード 制作 家庭にある身近な 食材で簡単、安全な 幼児食作り
	11月	2 子どもの食事		
	12月	3 子どもの衣服と寝具 4 子どもの健康と安全		
		★幼児食の調理実習		
	3 学期	第 4 章 子どもの福祉	・西欧と我が国の児童観の変遷について理解する。今日の児童観に至った歴史的経緯を理解する。 ・年々増加する子育て不安や虐待などの問題を把握し、家庭や社会で何ができるかを理解する。 ・子どもの遊びの現状を知り、「表現」について理解し、表現活動を援助する方法を考える。 ・子どもの保育や教育に関して学んだことをふまえて、1 人 3 分の技能を発表する。	これからの子どもの福祉について話し合う
	1 月	1 保育にみる児童観 2 児童福祉の理念と法規・制度		
	2 月	第 5 章 子どもの文化 1 子どもの文化の意義 2 子どもの文化を支える場 3 子どもと遊び 4 子どもの表現活動 ★実技発表会		
学習の留意点・評価など	・乳幼児期は人間形成の基礎を培う大切な時期であり、この時期における大人の働きかけや環境の整備がいかに重要であるかを理解できたか。 ・幼児とのふれあいや、身近な材料による玩具の製作を通して子どもたちの健全な成長に関心を持ち、それに関わることの楽しさ、喜びを感じることができたか。 ・近年増加している子育てに関する問題について真剣に考え、自分には何ができるか、どんな支援や対策があるかを理解できたか。 ・共同作業を通じて、気配りをしながら自分の役割と責任を果たすことの大切さを学ぶことができたか。			
備 考	夏休み「高校生の私立幼稚園体験学習」に参加予定			

教科名		家庭科	科目名	フードデザイン
対象学年		高校2年	コース・選択等	コースⅠ（2選2）
単位数		2単位	教科書 (出版社)	フードデザイン（実教出版）
使用教材		フードデザイン学習ノート（実教出版）		
学習のねらい		・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を目指し、合理的かつ創造的に解決する力を養う。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期	第4章 調理の基本		
	4月	1節 調理とおいしさ	・何のために調理するのかを理解し、おいしさに関わる条件を知り、調理にいかせる。 ・だし、味覚効果、料理の触感や温度、素材の持ち味等おいしさに関わる要素を理解する。 ・計量の方法、食品の切り方、調理方法の基礎、加熱調理器具の特徴などについて、具体的な知識と技術を身につける。	①調理実験： 味覚テスト、うま味テスト ①調理実習： 和食（おにぎり、みそ汁）
		2節 調理操作		
		3節 調味操作		
	5月・6月	第2章 栄養素のはたらきと食事計画		※2章1節～7節と3章1節については関連付けながら同時に進めていく。 ★実技テスト： うさぎりんご・木の葉切り ②調理実習： 洋食 ③調理実習： 中華
		1節 栄養素のはたらき	・人間が食品の摂取により、栄養をどのように取り入れていくか、食物が体内でどのように消化・吸収され、活用されていくかを把握する。	
		1 食物の摂取と栄養	・各種栄養素の特徴と体内でののはたらき、代謝について理解する。	
		2 炭水化物		
		3 脂質		
		4 たんぱく質		
	7月	第3章 食品の特徴・表示・安全		
		1節 食品と特徴と性質	・穀類、砂糖、大豆、豆製品、野菜、果物、海藻類、魚介類、肉類、卵、乳・乳製品、油脂、調味料、香辛料等について、それぞれの特徴を把握し、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理にいかせる。	②調理実験： グルテンの形成、ドウとバターの違い ④調理実習： 洋食
	2学期	第2章 栄養素のはたらきと食事計画		
	9月	1節 栄養素のはたらき		

	学期・月等	単 元	ね ら い	留意点
学 習 内 容 と 流 れ		5 ミネラル	・各種栄養素の特徴と体内ではたらき、代謝について理解する。	
		6 ビタミン		
		7 その他の食品成分	・水とその他の物質について、役割やはたらきを理解する。	
		第3章 食品の特徴・表示・安全		
		1節 食品と特徴と性質(続き)	・穀類、砂糖、大豆、豆製品、野菜、果物、海藻類、魚介類、肉類、卵、乳・乳製品、油脂、調味料、香辛料等について、それぞれの特徴を把握し、調理上の性質や加工品を理解し、食事計画や調理にいかせる。	
	10月	第5章 料理様式とテーブルコーディネート		
		1節 料理様式と献立	・日本料理、西洋料理、中国料理のそれぞれの様式に応じた献立とサービス・マナーについて理解する。	
		★日本料理の献立の特徴と食卓作法	・長い歴史を経て発達してきた、日本料理の特徴を学び、日本料理の献立の特徴や食卓作法を実践的に学ぶ。	★特別授業（テーブルマナー学習会）
	11月	★かんてん・ゼラチンの調理特性を発展させた実習	・実験・実習を通して、小麦粉の調理特性を理解する。	★特別授業（金城学院大学との連携授業） ⑤調理実習：洋食
	12月	2節 テーブルコーディネート	・和風・洋風・中国風のテーブルコーディネートの特徴を理解する。	★実技テスト：だし巻き卵 ⑥調理実習：和食
		○和風のテーブルコーディネート ○洋風のテーブルコーディネート		○和風：箸置きと箸袋の製作 ○洋風：クリスマスを演出 ⑦調理実習：洋食・クリスマス製菓
	3学期	第2章 栄養素のはたらきと食事計画		
	1月	2節 ライフステージと栄養	・各ライフステージの栄養上の注意点を把握する。	
		3節 食事摂取基準と食事計画	・食事摂取基準について理解し、食事計画が立てられるようにする。	⑧調理実習：中華
	2月	第6章 フードデザイン実習	・栄養バランス、年齢、性、目的を考慮した食事の献立について、要点が理解でき、日常食、行事食など用途に適した献立作成ができる。	◇家庭内実習：お弁当をつくろう
		★紅茶の授業	・紅茶の茶葉の特徴を理解する。 ・アフタヌーンティーの特徴を学び、紅茶の入れ方、香り方、効能などを知る。	⑨調理実習：軽食・製菓・紅茶（スコーン、アフタヌーンティー）

学習の 留意点・ 評価など	・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができたか。 ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を目指し、合理的かつ創造的に解決する力を養うことができたか。
備 考	・校外学習として、日本料理のテーブルマナー学習会を予定している。 ・金城学院大学生生活環境学部の先生による連携授業を行う予定である。

教科名		家庭科	科目名	消費生活
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅠ（A2）
単位数		2単位	教科書 (出版社)	高等学校用消費生活（文部科学省）
使用教材		令和8年度 消費生活（愛知県高等学校家庭科研究会） 「君とみらいとライフプラン」（公益財団法人 生命保険文化センター）		
学習のねらい		単に個人の欲求を求めて商品やサービスを購入するのではなく、自らの消費行動が地球・環境・社会・経済・倫理に影響をあたえていることを意識し、消費者市民として思いやりと責任を持った持続可能な消費をし、行動できる能力と態度を養う。 意志決定のプロセスに従ってよく考え、判断し、消費できる自立した消費者になる。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期			
	4月	第6章 環境と消費者	・私たちの便利な生活そのものが地球環境に大きな負担をかけていることを理解し、持続可能な社会への取り組みについて模索する。	
	5月	◇エコクッキング	・自分たちで考えたエコクッキングを実施する。	◇エコクッキング
	6月	◇バッグ製作	・エシカル消費を意識したオリジナルなバッグを製作する。	◇バッグ製作
		◇小テスト		◇小テスト実施
		第3章 消費生活の安全と自由		
		1. 消費生活の安全の確保	・消費者受けている危害の現状を具体的に知り、安全な消費生活に必要な知識、態度を身につける。	
		2. 消費生活の自由の確保	・消費生活におけるさまざまなトラブルの可能性を知り、トラブルを回避する方法を知る。	
		3. 信頼できる情報の確保	・不当表示・広告の例を挙げながら、その問題点を分析し、消費者として必要な情報を正確に入手するための方法を模索する。	
	7月	◇調理実習（加工食品の表示と食べ比べ）	・加工食品の食品表示を適切に読み取り、手作り品との違いを知る。	◇調理実習
	2学期	◇バッグとその広告表示の相互評価	・適切な値段設定をして、不当表示にならないように消費者の目を引く広告作りをする。 ・一消費者として、それぞれが作ったバッグと広告表示を見て、評価する。	◇POP製作
	9月	第1章 社会を支える消費者		
	10月	3. 社会の変化と消費生活の変化	・消費生活、消費者問題の歴史を学び、消費者を取り巻く社会の変化を理解する。	
	11月	第2章 消費者被害と消費者の権利・責任	・消費者の権利と責任を自覚する。	

	学期・月等	単 元	ね ら い	留意点
学 習 内 容 と 流 れ	12月	第5章 消費者契約と法 1. 生活の中の契約 2. 契約と責任 3. 複雑・多様化する販売方法と悪質商法 4. 消費者取引と関連法	・売買契約の意味を理解する。 ・多様化する販売方法を知る。 ・多様化する販売方法、さまざまな悪質商法とその対策を知る。 ・消費者取引に関連する法律の知識を習得し、様々な消費者トラブルにも対応できる力を身につける。	
	3学期 1月	5. 電子商取引と消費生活 6. 多様化する支払い方法と資金調達 第1章 社会を支える消費者 1. 消費生活の役割 2. 生涯の計画と管理 ◇ライフサイクルゲーム ◇「君とみらいとライフプラン」	・急速に普及した電子商取引について考える。 ・多様化する支払方法に対応できる知識を身につけ、資金調達の方法も知る。 ・経済活動における家計・企業・政府の関係を知り、消費者が経済社会で果たす役割を認識し、消費者市民社会の一員であることを自覚する。 ・家庭経済の基礎知識を身につけるとともに、将来のための経済計画について考える。 ・様々なライフイベントに関わる家計の収支をゲームを通して体験しながら、経済計画を考える。	◇生活設計
学習の留意点・評価など		・商品購入をする時、消費者市民社会の一員として、社会や環境のことを意識できるようになったか。 ・意志決定のプロセスに従ってよく考え、判断し、消費する習慣が身についたか。		
備 考				

教科名		家庭科	科目名	FP入門講座
対象学年		高校3年	コース・選択等	コースⅠ（選択A5）
単位数		1単位	教科書 (出版社)	なし
使用教材		教室内に投影するスライド 配布プリント・コメントシート (必要に応じて追加教材をClassi内にアップロードします)		
学習のねらい		ファイナンシャル・プランナーが業務として扱い、ファイナンシャル・プランニング技能士資格取得に必要な6つの学習分野について、資格試験過去問題を用いながら資格取得を目指して受験対策をメインに講義する。パーソナル・ファイナンスに関する学びを、生涯を通じた自らの生活設計に役立てることができるとともに、3級ファイナンシャル・プランニング技能士資格取得を目指す。		
学習内容と流れ	学期・月等	単元	ねらい	留意点
	1学期 4月	00FP事始め 経済の仕組みとFPの必要性 FP資格試験の体系 FP資格取得のための学び	ファイナンシャル・プランニングの必要性和資格の体系、学習内容を把握し、資格試験受験・合格に向けて必要な学びについて理解する	
	5月	01パーソナルファイナンス 生活設計・キャッシュフロー表 5つの社会保険制度 教育資金（奨学金・学資保険） 住宅資金（住宅ローン）	年金・健康保険など社会保険の仕組みを理解し、生活に必要な資金の調達と返済などについて理解する。 生活のリスクに備える保険について理解し、活用できるようにする。	
	6月	02リスクと保険 生命保険・損害保険 医療保険・個人年金保険 保険と税金		
	7月	03金融資産運用 金融の基礎・債券と利回り 株式投資・投資信託 外国為替と外貨建て商品 金融資産運用と税金	生涯にわたる資産形成に必要な金融に関する知識、金融商品の活用方法を理解する。 税金の仕組みを理解し、ふるさと納税などの諸制度をうまく活用できるようにする。	
	2学期 9月	04タックスプランニング 10種類の所得と所得税 退職所得・事業所得・損益通算 ふるさと納税活用法		
	10月	05不動産運用設計 不動産の価格・不動産の取引 不動産登記 建ぺい率・容積率 不動産と税金	不動産運用に関する法律・諸制度について理解する。不動産の取得・所有・譲渡などに関わる税金制度について理解する。 贈与と相続、法定相続分、相続税と申告・納税について理解する。	
	11月	06相続・事業承継設計 贈与と贈与税 法定相続分 相続税・申告と納税		

学期・ 月等	単 元	ね ら い	留意点
3 学期 12 月 1 月	07資格試験受験対策 学科過去問題と出題傾向 実技過去問題と出題傾向 5 月過去問題による受験対策 9 月過去問題による受験対策 1 月実施問題の解説	2023年 1 月にファイナンシャル・プランニング技能士試験を受験し、合格することを目指して、過去問題を解いて力をつける。	
学習の 留意点・ 評価など	教材はスライドプリントですので、特にプリントはファイルし、復習できるようにしてください。 電卓を使った計算を行いますので、電卓を持参してください。 この科目は成績評価の対象とはなっていません。		
備 考			